

特集●揺らぐ食品への信頼

最近の食品偽装表示問題の実態と背景 ————— 宮城大学食産業学部教授 池戸 重信
 食品安全対策における食品表示偽装問題の位置づけ ————— 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻 新山 陽子
 食品表示をめぐる企業のコンプライアンスマネジメント ————— 一ツ橋大学大学院法学研究科 松本 恒雄
 食品安全と企業倫理—消費者の立場から ————— 食の安全・監視市民委員会代表、弁護士 神山美智子
 わが国の食品安全行政の現状と課題 ————— 専修大学法学部 藤田由紀子
 兵庫県における食品安全行政の現状と課題 ————— 兵庫県健康福祉部健康局生活衛生課長 川久 通隆
 食品偽装事件を検証する—保健所の役割—検証：牛肉ミンチ問題 ————— 北海道江別保健所長 山口 亮

●視点

特定健診、特定保健指導の展望 ————— (財)埼玉県健康づくり事業団 舘上 博司

●新連載【パートナーシップ時代の国際保健協力—これから国際保健協力を志す若者への10章】

はじめに—国際保健のランドスケープの変化 ————— WHO 本部 江浪 武志、武井 貞治、中谷比呂樹

あ と が き

以前、死亡率の研究をしていた頃、集団の死亡率あるいは平均寿命は何によって決定されるかについて考えていました。そして、死亡率を決めるのは、突き詰めたところ、集団の中の貧困者の割合、それも相対的な貧困者の割合ではなく、一定水準以下の所得の貧困者の割合ではないかと推測していました。すなわち、食べられるか、食べられないかの貧困水準が決定要因ではないかと考えていました。現在のわが国の平均寿命は世界最高水準です。しかし、わが国に貧困が蔓延していく現状を見ると、遠からず、世界最高から脱落するような気がしています。

今回は貧困の特集を企画してみました。貧困と健康は公衆衛生にとって基本的な問題です。しかし、今回の特集を読んで、われわれ公衆衛生従事者には貧困問題を根

本的に解決することはできないと改めて感じました。また生活困窮者の健康問題に公衆衛生として何ができるか、考え込んでしまいました。

昔の生活困窮者は貧しいなりの生活技術を持っていたように思います。それは安くて栄養のある食事を自分で作り、お茶を自分で煎れるといった当たり前の技術です。現在の生活困窮者には、その技術が失われ、コンビニやスーパーの弁当で食事を済ませ、ペットボトルのお茶を飲むといった習慣が広まっている気がします。自ら食事を作ることは健康にも結びつきます。自炊技術の普及、ささやかですが、その辺りから何かができないかと思っています。

(西田茂樹)

公衆衛生(第72巻 第9号) 2008年9月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%) (2008 年 年 ぎ め 予 約 購 読 料 28,200 円 ※ 配 送 料 弊 社 負 担)

発行：株式会社 医学書院 代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

本誌編集室直通 TEL (03) 3817-5718 FAX (03) 3815-7802

販売部直通 TEL (03) 3817-5659・5660 FAX (03) 3815-7804

E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp 振替口座 00170-9-96693 番

印刷所：三美印刷(株) TEL (03) 3803-3131

広告申込所：(株)東広社 TEL (03) 3409-8803/デザイン：デザイン・プレイス

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2008, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ **JCLIS** (© 日本著作出版権管理システム委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・ 公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田 羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

林 謙治 国立保健医療科学院

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部・衛生研究所

品川 靖子 東京都文京区文京保健所

高島 敏雄 大阪大学大学院医学系研究科

西田 茂樹 福島県衛生研究所

編集室通信

やさしさのない社会だなあ。最近の貧困者や高齢者に関する報道を見て、そう感じてしまいます。そういう私も、これを読んで下さる読者の方々も、あとウン十年もすれば誰もが高齢者になるし、決して人事ではない。弱者に厳しい社会は、弱者になることを他人だけではなく、自分にも許せなくて、いつも強く優秀でいるために頑張らなくてはならなくて、その緊張状態が続けば、病気になってしまうかも。

長い人生、挫折や失敗は誰にもやってくる。そのときは、「心」のある人にさらに近づく大事なチャンスの時でもある。自分を見つめ、自分の愚かさ、弱さに気づき、そんな自分を受け入れることができた人は、本当に思いやり深い、やさしい人になると思う。他者に思いやり深いやさしい人が、社会にたくさん増えますように。

(野中)

(担当/野中・今田)